取扱説明書

VHF 無線電話装置

IC−VH30CTM

UHF 無線電話装置

IC−UH30CTM

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、アイコム業務用無線電話装置をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、大切に保管してください。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc.、ICOM 、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

使用後はリサイクルへ

希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

本製品の概要について

- 本機は携帯用として設計されたプレストーク方式の複数波簡易業務用無線電話装置です。
  IC-VH30CTMは、9チャンネルに対応します。
  IC-UH30CTMは、35チャンネルに対応します。
- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した製品です。
- 本機は、JIS保護等級5(防噴流形)相当に対応する防水性能がありますので、雨や水しぶきでも気にせず運用できます。
- バッテリーパックは、リチウムイオン電池を採用していますので、軽量で長時間の運用が可能です。

標準構成品

本製品には、下記のものを同梱しています。

- 無線機本体 ……1
- アンテナ ……1
- ハンドストラップ ……1
- リチウムイオンバッテリーパック※ ……1
- 取扱説明書(本書)
- 保証書

※リチウムイオンバッテリーパックは、お買い上げのタイプによって、別途お買い求めいただく必要があります。

はじめに

防水性能について

本製品は、JIS保護等級5(防噴流形)相当の防水性能がありますが、完全防水構造ではありません。
次のような使いかたをすると、防水性能を保証できませんので、ご注意ください。

- アンテナ(付属品)やバッテリーパックを無線機本体に取り付けないで使用したり、下記に指定の別売品以外を使用したとき
- 水や海水につけたとき
- 雨の中や、水滴が付着、または濡れた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、短縮アンテナを付けたり、はずしたりしたとき
- 落としたりして、強い衝撃が加わったとき

■ JIS保護等級5(防噴流形)相当とは

バッテリーパックを正しく装着した状態で、水の直接噴流※を受けても、無線機として機能する防水性能です。

※注水ノズル(内径6.3mm)をすべての方向に使用して、3mの距離から、1分間に1平方メートル当たり約12.5リットルの水を3分間以上注水することです。

■ 別売品※の防水性能について

バッテリーパック(BP-219/BP-220L/BP-233)、防水形スピーカーマイク(HM-130)、短縮アンテナ(FA-S73U)を無線機本体に装着することで、JIS保護等級5(防噴流形)相当の防水性能になります。

それ以外の別売品(☞7章)については、防水性能を保証していませんので、ご注意ください。

※別売品の中には、付属品として設定しているものもあります。

ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

もくじ

この取扱説明書では、一般的なご使用を想定した内容にしていますので、設定されている機能について詳しくは、販売店にお尋ねください。

1.安全上のご注意(必ずお読みください。) ――――1

2.ご使用前の準備――――――――――――11

■バッテリーパックの取り付け(BP-219/220L/233) …11
■付属品の取り付け【アンテナ】、【ハンドストラップ】…12
■ベルトクリップの取り付け(別売品：MB-79の場合) ……12

3.各部の名称と機能――――――――――13

■前面部 ……13
■ディスプレイ部 ……15

4.交信のしかた――――――――――――16

1 電源を入れる ……16
2 音量を調整する ……16
3 相手局の選びかた ……17
■通話チャンネル番号の選びかた ……17
■個別(相手局)番号について ……19
■全体/基地/個別表示への切り替えかた ……19
■個別/グループ呼び出しの選びかた……20
4 呼び出しをする ……20
■アンサーバック機能(呼び出しコード仕様：2桁設定) …20
5 呼び出しを受ける ……21
■ポケットビープ ……21
■着信表示 ……21

もくじ

4.交信のしかた(つづき)

6 交信する ……22
■正しい通話方法 ……22
■交信時のアドバイス ……23
1.マイクロホンの使いかた ……23
2.個別呼び出しについて ……23
3.相手局から応答がないときは ……23
4.交信する場所について ……23

5.そのほかの機能について――――――24

1. 自局メモリー番号表示機能 ……24
2. ロック機能について ……24
3. スケルチレベルを変更するには ……24

6.充電について――――――――――25

■安全な充電のために ……25
■バッテリーパックの残量表示について ……25
■バッテリーパックの残量警告アラームについて ……25
■充電のしかた(BC-141Aの場合) ……26
■充電のしかた(BC-121Nの場合) ……27
■バッテリーパックの名称と定格について(別売品) ……28
■急速充電器の定格について(別売品) ……28
■正しい充電のために ……29

もくじ

7.別売品について——30

■別売品リスト ……30
■別売品を接続するには ……32
■HM-130(防水形スピーカーマイク) ……32
■EM-80(スピーカーマイク) ……32
■HM-139(小型スピーカーマイク) ……33
■AD-52(イヤホンジャックアダプター) ……33
■SP-16(耳掛け型イヤホン) ……34
■HM-109(接話タイピン型マイクロホン) ……34
■FA-S73U(IC-UH30CTM用防水形短縮アンテナ) ……34
■MB-86(回転式ベルトクリップ) ……35
■MB-97(ベルトクリップ) ……37
■HM-147(骨伝導マイク) ……38
■OPC-636/OPC-637
(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル) ……39
■HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤーパット型スピーカー)の組み立て ……40
■HS-88(ヘッドセット) ……41
■HM-104/HM-104A
(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン) ……41
■EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー) ……42
■EH-13(耳掛け型イヤホン) ……42
■EH-14(オープンエアー型イヤホン) ……43
■EH-15(イヤホン) ……43
■MB-61/MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け ……44

8.保守について——45

Ⓐ日常の保守と点検について ……45
Ⓑ故障かな？と思ったら ……46
Ⓒアフターサービスについて ……47

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、ご使用の前に、必ずお読みください。

▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■無線機本体について

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

●引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
  電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。**
  火災、感電、故障の原因になります。
- **アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続しないでください。**
  感電、故障の原因になります。
- **アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップの端を持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。**
  本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
  大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。**
  すぐに電源を切り、バッテリーパックを取りはずしてください。煙が出なくなるのを確認し、販売店または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

■無線機本体について(つづき)

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

- **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
  変形や破損の原因になることがあります。
- **無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**
  落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
  変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- **指定以外の別売品を接続しないでください。**
  故障の原因になることがあります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
  電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- **清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。**
  ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
  普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■バッテリーパックについて(BP-219/220L/233)

⚠危険	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- 指定以外の充電器で充電しないでください。
- 本製品以外の機器などに使用しないでください。
- 漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 火の中に投入したり、加熱しないでください。
- 半田付けしないでください。
- バッテリーパックの端子間をショートしないでください。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- 火のそば、ストーブのそばや炎天下など高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

◆バッテリーパックを使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

■バッテリーパックについて(BP-219/220L/233)つづき

⚠警告	下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
  バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
- バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落下させないでください。
- 水や海水につけたり、ぬらさないでください。
- 分解や改造をしないでください。

⚠注意 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。

- 0～+40℃の範囲以外では充電しないでください。
- 高温の場所で使用、放置しないでください。
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 無線機を長時間使用しないときは、バッテリーパックを取りはずし、−20℃～+35℃の湿気の少ない場所に保管してください。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

- ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■充電器について(別売品)

⚠危険 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- 付属品以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定のバッテリーパック以外には使用しないでください。BP-219、BP-220L、BP-233専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

⚠警告 下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重い物を載せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。

- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源コードを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- 0～+40℃の範囲以外では充電しないでください。
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源コードを抜き差しするときは、電源コードを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。

◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

◎充電器を保管するときは、−20℃～+60℃で湿気の少ない場所に保管してください。
サビの発生、性能の低下の原因になることがあります。

■充電器について(別売品)つづき

⚠注意 **下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。**

◎本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

取り扱い上のご注意

- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。
- 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
  結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- 雨や水しぶきがかかっても運用できますが、雨の中や、水滴が付着、または濡れた手のままでバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、短縮アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- 水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。
- 充電口や充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、ときどきお手入れしてください。
- 磁気カードを無線機に近づけないでください。
  磁気カードの内容が消去されることがあります。

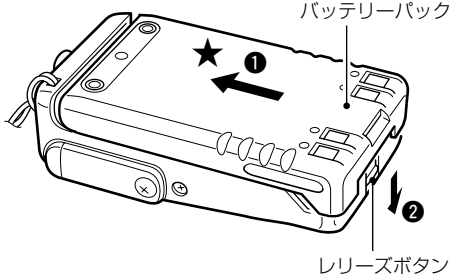
- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本機の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますので予めご了承ください。

電波法上のご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証(技術基準適合証明)を取得した業務用無線電話装置です。これは簡単な手続きにより無線送受信機を使っていただくために定められたもので、無線機本体を容易に分解できない構造になっています。
  ご自分で分解や改造をしないでください。
- 通信は免許状に記載されている範囲内で行ってください。
- 特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- 免許の有効期限は、免許を取得した日から5年間です。
  再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前の間に手続きをしてください。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

2 ご使用前の準備

■ **バッテリーパックの取り付け**(BP-219/220L/233)
バッテリーパックを本体に密着させながら、[❶]の方向にスライドして、レリーズボタンを[❷]の方向に押し下げてはなすと固定できます。



★無線機底面のレリーズボタンが確実にロックできる位置まで、バッテリーパックを[❶]の方向に押し込んでください。

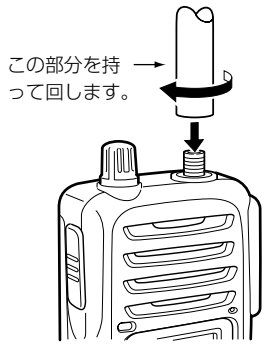
⚠注意

パッテリーパックを取り外すときは、次のことを守らないと、指や爪を傷めるおそれがあります。
バッテリーパックを取り外すとき、レリーズボタンの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、レリーズボタンが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に操作してください。

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

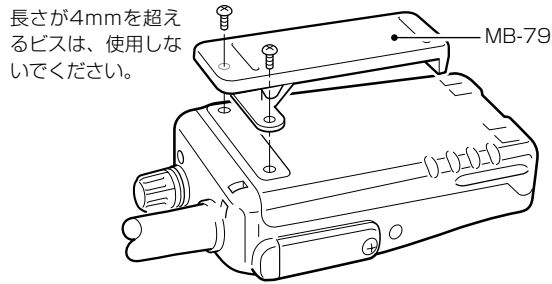
■ 付属品の取り付け

【アンテナ】



【ハンドストラップ】

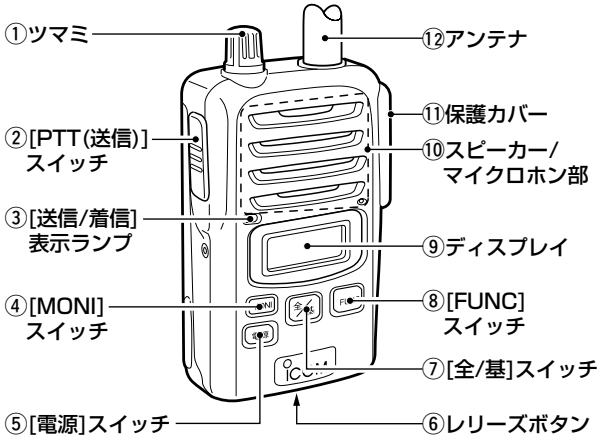
■ ベルトクリップの取り付け(別売品：MB-79の場合)



※ベルトクリップは、タイプ(MB-79、MB-80、MB-86、MB-97)によって、使用できるビスの長さが異なります。
取り付けるときは、お使いのベルトクリップに付属するビスより長いものを使用しないでください。

3 各部の名称と機能

■前面部



① ツマミ
音量の調整を行います。
電源投入時の音量レベル設定状態は、前回の交信に使用したレベルが設定されます。
※呼び出し機能が設定されている場合は、表示モードを切り替えると、「通話チャンネル」番号または「個別(相手局)」番号の選択ができます。
(☞P17～20)

② [PTT(送信)]スイッチ
押しつづけると送信状態、手をはなすと受信状態になります。

③ [送信/着信]表示ランプ
送信/受信/着信の状態を示します。
- 送信時は赤色で点灯します。
- 受信時は緑色で点灯します。
- 着信中は橙色で点滅します。

④ [MONI]スイッチ
押すごとに、「ON」と「OFF」を切り替えます。
※通常は使用しませんが、他局が呼び出し機能で交信するのを受信したり、交信相手局の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量調整するときは、「ON」にします。

⑤ [電源]スイッチ
長く押すごとに、電源の「ON」と「OFF」を切り替えます。

⑥ レリーズボタン
バッテリーパックを取り付けたり取りはずしたりするボタンです。

⑦ [全/基]スイッチ
押すごとに、[全体]→[基地]→[個別]の順番に呼び出せる局を切り替えます。
※呼び出し機能やデジタルトーンスケルチを設定していない場合、スイッチ操作は無効になります。

⑧ [FUNC]スイッチ
短く押すごとに、[音量レベル]→[通話チャンネル]→[個別(相手局)番号]の順番に表示を切り替えます。
※長く押すごとに、ロック機能の「ON」と「OFF」が切り替わります。

⑨ ディスプレイ
運用状態を表示します。

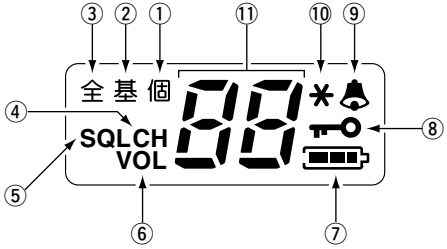
⑩ スピーカー/マイクロホン部
超小型のスピーカーとマイクロホンを内蔵しています。
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するときは、機能しません。

⑪ 保護カバー
別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。
保護カバーをはずすと、接続できます。接続しないときは、保護カバーを付けておきます。

⑫ アンテナ
電波を発射、または受信する部分です。

電源を入れたときや各部のスイッチを操作したとき、約5秒間ディスプレイ部の照明が点灯します。

■ディスプレイ部

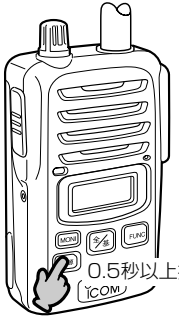


①個別表示
呼び出し機能で、相手局を個別に呼び出すとき表示します。
②基地表示
呼び出し機能で、基地局を呼び出すとき表示します。
③全体表示
呼び出し機能で、すべての局を呼び出すとき表示します。
④CH
表示する数字が通話チャンネル番号のとき表示します。
⑤SQL
表示する数字がスケルチレベルのとき、点滅します。
点滅中は、スケルチレベルを変更(☞5章)できます。
⑥VOL
表示する数字が音量レベルのとき表示します。

⑦
電池の残量を4段階で表示します。(☞6章)
⑧
ロック機能(☞5章)の動作中に表示します。
⑨
不在時など、呼び出しを受けたこと(着信)を点滅で知らせます。
⑩
コンパンダ機能が設定されているとき表示します。
⑪88
音量レベル(0～32)を表示します。
※設定により、通話チャンネル番号を表示します。
呼び出し機能が設定されている場合、運用する個別(相手局)番号を表示します。

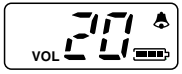
1 電源を入れる

[電源]スイッチを長く(0.5秒以上) 押します。
再度、**[電源]**スイッチを長く押すと電源が切れます。



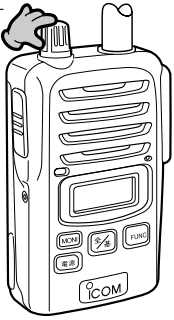
電源が入ると、ビープ音が「ピッ」と鳴って、「音量レベル」を表示します。このとき、ディスプレイ部のバックライトが約5秒間点灯します。

「音量レベル」表示



2 音量を調整する

相手局の音声が大きすぎたり、小さすぎるときは、「音量レベル」を表示した状態で、**[ツマミ]**を回して聞きやすい音量に調整します。



何も音が出ていない状態での調整は、**[MONI]**スイッチを押して「ザー」という雑音を出してから、この音を聞きながら調整します。再度、**[MONI]**スイッチを押すと雑音が切れます。

3 相手局の選びかた

呼び出し機能での交信は、あらかじめ呼び出す相手局の[通話チャンネル番号]と[個別(相手局)番号]を選択する必要があります。

■ 通話チャンネル番号の選びかた

通話チャンネル番号とは、交信する周波数のことです。
交信する全局は、同一チャンネルに設定しておきます。

「音量レベル」表示からの選択

① **[FUNC]**スイッチを短く押します。

「CH」番号表示

② **[ツマミ]**を回します。
※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。

2チャンネル選択時

※「音量レベル」表示に戻ったときは、もう一度はじめから操作を行ってください。

3 相手局の選びかた(つづき)

■ 通話チャンネル番号の選びかた(つづき)

「個別(相手局)番号」表示モードからの選択

下記の表示から通話チャンネル番号を選ぶときの操作です。

① **[FUNC]**スイッチを短く2回続けて押します。

「CH」番号表示

② **[ツマミ]**を回します。

※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。

2チャンネル選択時

※「音量レベル」表示に戻ったときは、[「音量レベル」表示からの選択](☞P17)の操作を行ってください。

3 相手局の選びかた(つづき)

■個別(相手局)番号について

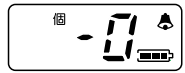
個別番号とは、呼び出し機能を使って運用するときに、交信する相手を指定するための番号です。
個別番号の選びかたで、次の4通りの呼び出しができます。

全体呼び出し(AL)→→→→→→→→→→
一斉に全局を呼び出す。

基地呼び出し(出荷時の設定：99)→→→
「00」～「99」のうち基地局に指定された1局を呼び出す。

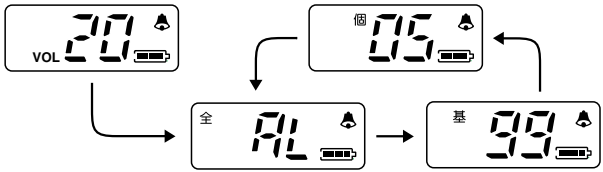
個別呼び出し(出荷時の設定：00～10)→
「00」～「99」のうち選択された一局を呼び出す。

グループ呼び出し(いずれかを表示)→→→
「0ー」～「9ー」に指定されたグループ局を呼び出す。　(0ー：00～09の10局)
「ー0」～「ー9」に指定されたグループ局を呼び出す。　(ー0：000～099の100局)



■全体/基地/個別表示への切り替えかた

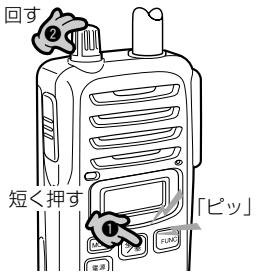
[全/基]スイッチを短く押すごとに、図のように切り替わります。



3 相手局の選びかた(つづき)

■個別/グループ呼び出しの選びかた

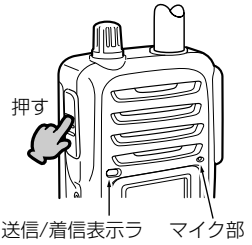
① **[全/基]**スイッチを短く繰り返して押して、個別またはグループ表示にします。
② **[ツマミ]**を回します。
※5秒以上何も操作しない状態がつづくと、「音量レベル」表示に戻ります。



4 呼び出しをする

[PTT]スイッチを押すと、送信/着信表示ランプが赤色に点灯します。**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって
『こちらは××局です。○○さんどうぞ。』
と呼びかけたら、**[PTT]**スイッチをはなします。

呼び出し機能が設定されていると、**[PTT]**スイッチを押したとき、“ピピッ”と鳴ります。



■アンサーバック機能(※3OCTMの呼び出しコード仕様が「2桁設定」の場合)
互いの無線機に設定されていると、受信していない状態で**[PTT]**スイッチを短く押したとき、相手局が通話圏内のときは、1回だけ“ピッ”(圏内ビープ)と鳴って、送信/着信表示ランプを1回だけ緑色で点滅させます。

5 呼び出しを受ける

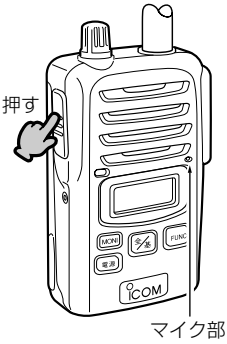
呼び出しを受けると、相手局の個別番号をディスプレイ部に点滅表示します。

※呼び出しコード仕様が「3桁設定」のときは、「- -」を表示します。

その状態で**[PTT]**スイッチを押しながら、マイク部に向かって

『**こちらは○○局です。**
××さんどうぞ。』

と応答します。



🔔表示を点滅させることで、無線機からはなれていても呼び出しを受けたことを知らせます。

[PTT]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅を停止できます。

※点滅を停止させるまで、[ツマミ]の操作はできません。

■ポケットビープ

ポケットビープが設定されていると、呼び出しを受けたとき、ビープ音を鳴らすことができます。**[PTT]**または**[全/基]**スイッチを押すと、途中で停止できます。また、相手局から「全体」または「グループ」で呼び出しを受けたときは、ポケットビープは鳴らさずに右図の表示だけで知らせます。

■着信表示

着信表示が設定されていると、呼び出しを受けたとき、送信/着信表示ランプを橙色に点滅します。

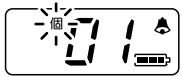
[PTT]または**[全/基]**スイッチを押すと、点滅を停止できます。

6 交信する

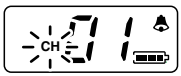
交信は交互に行います。

- 双方同時に送信しても、交信できません。
- 送信の終わりに『どうぞ』をつけ加えると、会話がスムーズに運びます。

交信中は、「個」または「基」表示を点滅します。
点灯表示に戻ったとき[PTT]スイッチを押すと、再度相手局を呼び出します。
また、「CH」番号表示で呼び出しを行った場合、交信中は、「CH」表示を点滅します。
※交信(表示点滅)中は、[ツマミ]の操作はできません。



個別呼び出しで交信中



「CH」番号表示で交信中

■正しい通話方法
通話は次の要領で行ってください。
用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】		【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」	：3回以下	3回以下
「こちらは」	：1回	1回
「自局の呼び出し名称」	：3回以下	1回
「どうぞ」	：1回	1回

■ 交信時のアドバイス

1.マイクロホンの使いかた

- マイクロホンに向かって話すときは、マイクロホンと口元を5cmくらいはなし、ふつうに話す大きさの声で話します。
  あまり大きな声で話すと、かえって明瞭度が悪くなります。
- デジタルトーンスケルチ運用時は、[PTT]スイッチを押すと“ピピッ”というモニター音が鳴ります。
  そのあとマイクロホンに向かって話してください。

2.個別呼び出しについて

個別呼び出しをするときは、[通話チャンネル番号]と[個別番号]を相手局と同じにしないと個別呼び出しできません。

3.相手局から応答がないときは

呼び出し機能を使用して基地または個別呼び出しをしたあと、[PTT]スイッチをはなすと、相手局の番号を数秒間だけ点滅表示します。

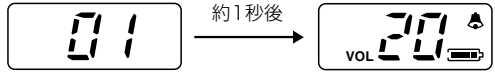
相手の無線機が電波を受信できない場所に移動したなどの理由で応答がないときは、点滅表示が点灯に替わってから、再度[PTT]スイッチを押すと、何回でも呼び出しをすることができます。
なお、相手が無線機からはなれていたなど、圏内ビープは鳴ったが相手から応答がない場合で、交信中の点滅表示が継続中は続けて呼び出しすることができません。

4.交信する場所について

周囲の状況(天候、建物や山の陰など)により、受信しにくくなることがあります。
そのときは、場所を少し移動して交信してください。
また、テレビやラジオなどの家電製品や、パソコンおよび電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作することがありますので、はなれてご使用ください。

1.自局メモリー番号表示機能

呼び出し機能が設定されていると、電源投入直後の約1秒間、この無線機の自局メモリー番号をディスプレイ部に表示します。



自局メモリー番号表示　　音量レベル表示

2.ロック機能について

不用意に**[全/基]**スイッチや**[FUNC]**スイッチ、**[ツマミ]**にふれても、個別番号や表示が変わらないようにする機能です。

[FUNC]スイッチを長く押すと“ピッピピッ”と鳴って、[ ]をディスプレイ部に表示します。

再度、同じ操作で解除します。

それ以外のスイッチは、ロックされていても操作できます。

3.スケルチレベルを変更するには

受信する相手局の信号レベルの強弱に応じて、スケルチが動作するレベルを無線機本体で選択できます。

レベルは、00(浅い)～64(深い)の範囲で選択できます。

《選択のしかた》

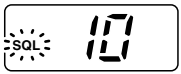
①**[FUNC]**スイッチを押しながら、**[電源]**スイッチを押します。

②“ピッ”と鳴ったら**[電源]**スイッチだけをはなします。

- ディスプレイ部には、何も表示しない状態になります。

③**[FUNC]**スイッチを素早く押し直して、はなします。

- セットモードに移行して、スケルチレベルを表示します。



④**[ツマミ]**を回して、レベルを選択します。

※選択後、**[MONI]**スイッチを押すと、出荷時のスケルチレベル表示に戻ります。

※選択後、セットモードでは、受信できませんので、**[電源]**スイッチを入れ直して受信状態を確認してください。

⑤**[電源]**スイッチを押して電源を切ります。

6 充電について

■安全な充電のために

⚠危険

- 充電するときは、必ず指定の充電器をご使用ください。
- 指定(BP-219/220L/233)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- 「安全上のご注意」(☞P1～10)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

⚠注意

本製品やバッテリーパックが濡れたり汚れた状態で、充電しないでください。
本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子が錆びたりして、故障の原因になります。

■バッテリーパックの残量表示について
ディスプレイ部の 表示は、バッテリーパックの残量に応じて変化します。

表示	バッテリーパックの状態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
	すぐに使えなくなりますので、充電が必要です。
	ほとんど容量がなく、表示点滅と警告アラームで知らせます。

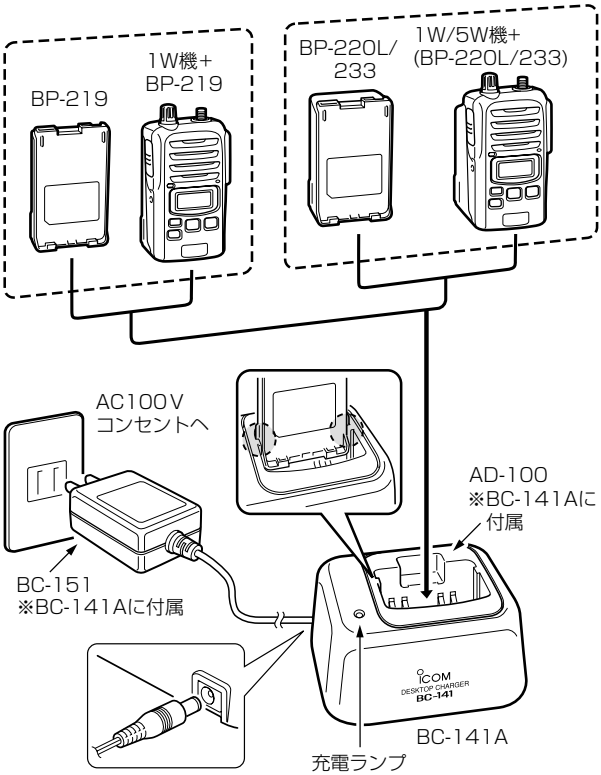
■バッテリーパックの残量警告アラームについて
バッテリーパックの残量表示が 表示になると、警告アラームが**「ピーピーピー」**と、30秒おきに繰り返し鳴ります。
警告アラームが鳴り出したら、すぐに充電を行ってください。
※警告アラームが鳴った状態でご使用を続けられますと、警告アラームが**「ピーピッピッピッ･･･」**と5秒間鳴り続けたあと、無線機の電源を自動的に切ります。

■充電のしかた(BC-141Aの場合)

パッテリーパック(BP-219/220L/233)単体または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、46ページをご参照ください。



6 充電について

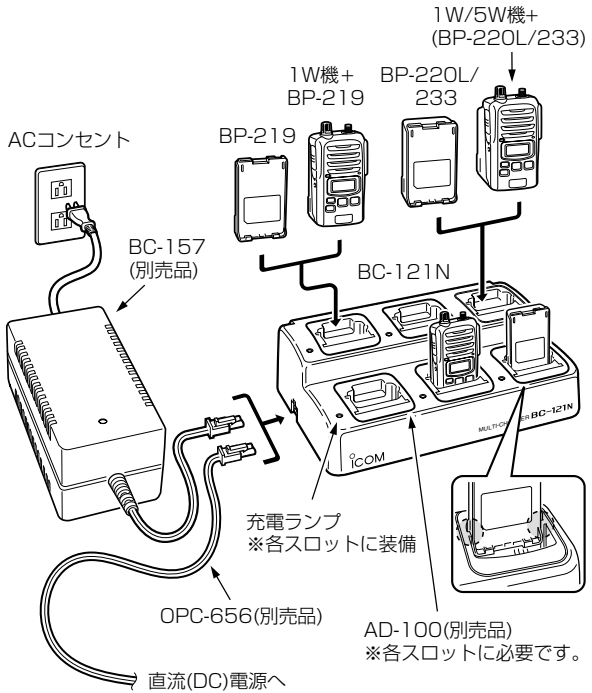
■充電のしかた(BC-121Nの場合)

パッテリーパック(BP-219/220L/233)単体または無線機に装着した状態で急速充電できます。

充電ランプは、充電中は橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※赤色に点滅する場合は、46ページをご参照ください。

※BC-121Nに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。



■バッテリーパックの名称と定格について(別売品)

名称 / 定格項目		BP-219	BP-220L	BP-233
電池の種類		リチウムイオン		
電池の容量		1100mAh	2800mAh	1800mAh
出力電圧		7.4V		
寸法 (幅×高さ×奥行)		56×91×10.7	56×91×21.3	
		<条件>突起物は含まず/<単位> mm		
運用時間	1W機	約9時間	約24時間	約15時間
	5W機	―	約17時間	約10時間
	<条件>送信5、受信5、待ち受け90の割合で、繰り返し運用			
充電時間		約1時間30分	約3時間30分	約2時間30分
		<条件>BC-141AまたはBC-121Nを充電器に使用時		

※BP-219/220L/233は、完全防水構造ではありません。本製品に装着して運用することで、無線機本体の防水性能に適合します。

※バッテリーパックが異常と思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

■急速充電器の定格について(別売品)

- **名　　称**：BC-141A卓上急速充電器(AD-100付属)
- **定格入力電圧**：AC100V(50/60Hz) ※BC-151入力電圧
- **使用温度範囲**：0℃～+40℃
- **保存温度範囲**：−20℃～+60℃
- **重　　量**：約380g(BC-151、AD-100を含む)
- **寸　　法**：115(W)×60(H)×103(D)mm

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

※BC-121Nについては、BC-121Nに付属の取扱説明書をご覧ください。

6 充電について

■正しい充電のために

バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、約2ヵ月以上充電しなかったときは必ず充電してください。
- 本製品のバッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
  なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- 極端な高温・低温のもとで充電したり、バッテリーパックと充電器の温度差が大きいときは、充電できないことがあります。
  充電するときは、0℃～+40℃の範囲を超えない場所で行ってください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、使用する頻度(ひんど)によりますが、普通の使いかたで約300回程度です。
  指定時間充電しても、数分後にディスプレイ部の残量表示が変化する(運用時間が極端に短い)ときは交換時期です。
- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。

■別売品リスト
[★]印のものは、本製品に装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。

バッテリー関係

- BP-219★ ：1W機専用リチウムイオンバッテリーパック
- BP-220L★：1W/5W機専用リチウムイオンバッテリーパック
- BP-233★ ：1W/5W機専用リチウムイオンバッテリーパック
- BP-221 ：緊急用乾電池ケース(単3型アルカリ乾電池×5本)

急速充電器/電源関係

- BC-141A ：卓上急速充電器(ACアダプター、AD-100付属)
- BC-121N ：6連急速充電器(AD-100/BC-157/OPC-656別売)
- AD-100 ：充電器アダプター(BP-219/220L/233充電用)
- BC-157 ：ACアダプター(BC-121N用)
- OPC-656 ：DC電源ケーブル(BC-121N用)

腰にかける

- MB-79 ：ベルトクリップ(標準型)
- MB-86 ：回転式ベルトクリップ
- MB-97 ：ベルトクリップ(ステンレス製)

肩にかける

- MB-61 ：ショルダーストラップ(LC-153/LC-154用)
- MB-80 ：ショルダーストラップ(BP-219/220L/221/233用)

無線機を保護する

- LC-153 ：ハードケースS(BP-219用)
- LC-154 ：ハードケースL(BP-220L/221/233用)

■別売品リスト(つづき)

スピーカーマイク関係

- EM-80　：スピーカーマイク
- HM-130★：防水形スピーカーマイク
- HM-139　：小型スピーカーマイク

マイクロホン/ヘッドセット関係

- HM-104　：単一指向性タイピン型マイクロホン
- HM-104A：無指向性タイピン型マイクロホン
- HM-109　：接話タイピン型マイクロホン
- HM-147　：骨伝導マイク(TEMCO製)
- HS-86　：ヘルメット取り付け型ヘッドセット
- HS-88　：ヘッドセット
- HS-92　：ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
- OPC-636：マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック式)
- OPC-637：マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(アンロック式)

イヤホン関係

- EH-13　：耳掛け型イヤホン(プラグ：2.5φ)
- EH-14　：オープンエアー型イヤホン(プラグ：2.5φ)
- EH-15　：イヤホン(プラグ：2.5φ)
- SP-16　：イヤホン(プラグ：3.5φ、AD-52用)

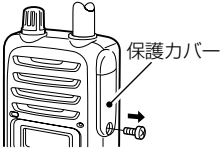
スピーカー関係

- EH-11　：イヤーパッド型スピーカー(プラグ：2.5φ)
- EH-12　：ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ：2.5φ)

変換アダプター/アンテナ関係

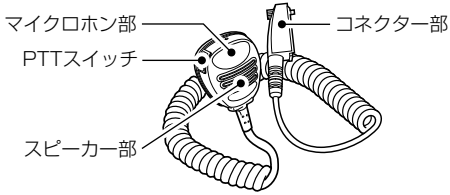
- AD-52　：イヤホンジャックアダプター(ジャック：3.5φ)
- FA-S73U★：IC-UH30CTM用防水形短縮アンテナ

■別売品を接続するには

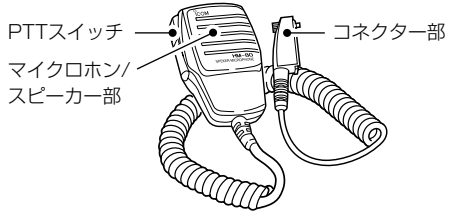


①市販のドライバーを用意します。
②無線機の側面側にある保護カバー固定用のビス(1本)をゆるめます。
③保護カバーをはずします。

■HM-130(防水形スピーカーマイク)
無線機に取り付けることで、無線機本体の防水性能に適合します。

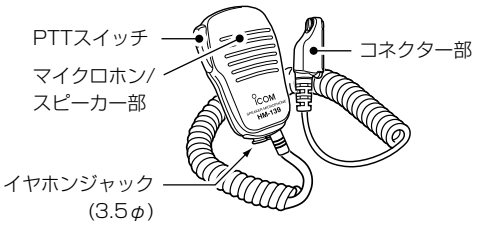


■EM-80(スピーカーマイク)



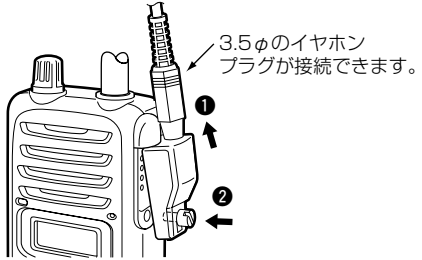
7 別売品について

■HM-139(小型スピーカーマイク)

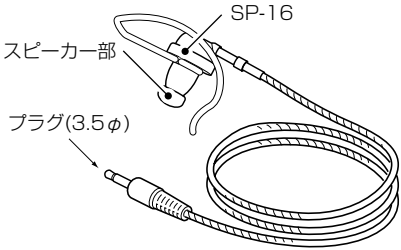


■AD-52(イヤホンジャックアダプター)

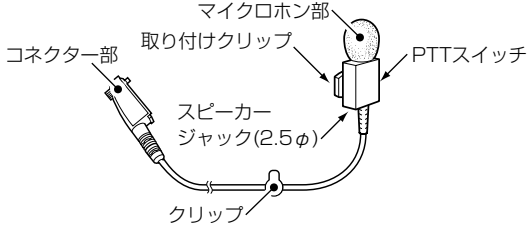
別売品のSP-16と組み合わせてご使用になれます。
また、市販品のイヤホン(プラグ：3.5φ)と組み合わせてご使用になれます。
※装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。



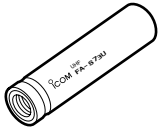
■ SP-16(耳掛け型イヤホン)
別売品のAD-52と組み合わせてご使用になれます。
どちらの耳でも使用できます。



■ HM-109(接話タイピン型マイクロホン)
別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。

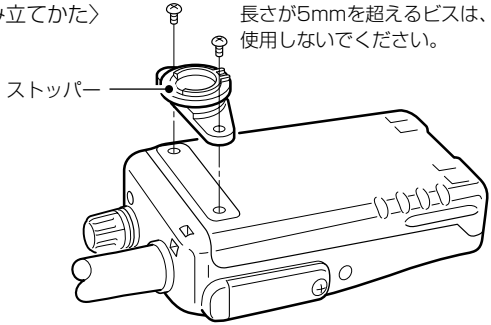


■ FA-S73U(IC-UH30CTM用防水形短縮アンテナ)
無線機に取り付けることで、無線機本体の
防水性能に適合します。

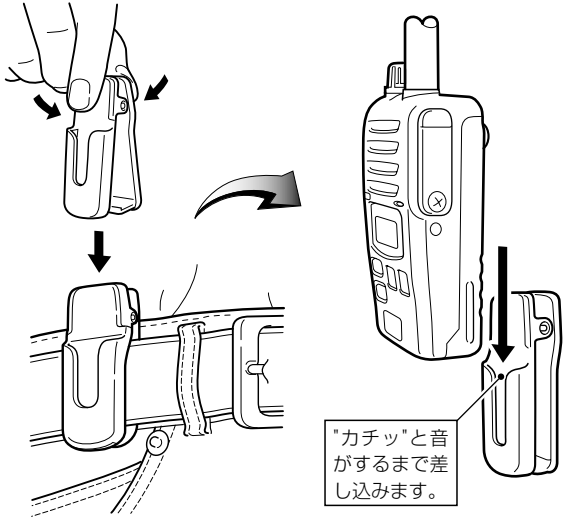


■MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉



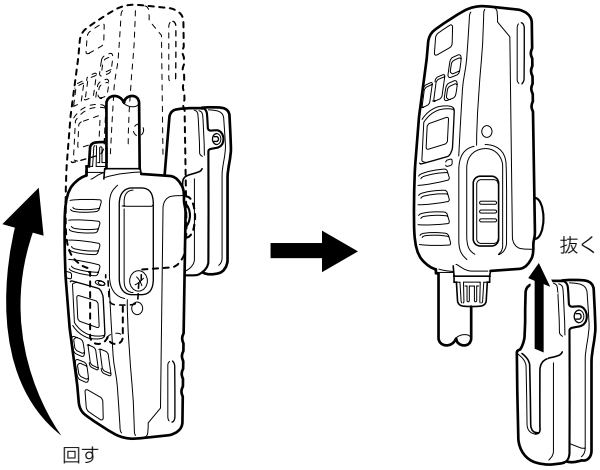
〈無線機の取り付けかた〉



■ MB-86(回転式ベルトクリップ)つづき
〈無線機のはずしかた〉
ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

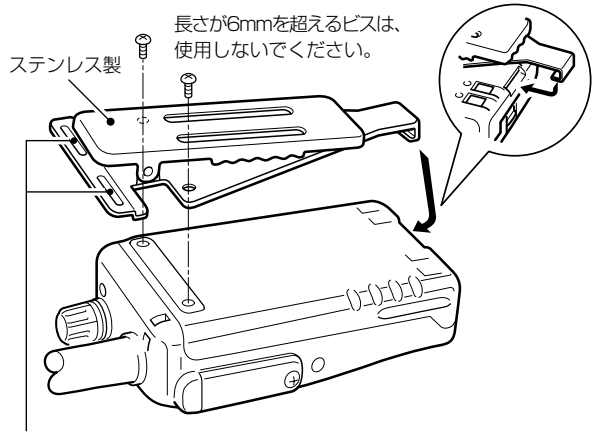
⚠注意

ストッパーの破損にご注意ください。
落としたり、強い衝撃が加わってストッパー部分を破損すると、ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。



7 別売品について

■MB-97(ベルトクリップ)



MB-61(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

※MB-97に付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

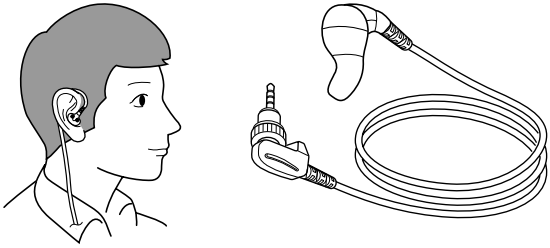
⚠注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

■ HM-147(骨伝導マイク)

ご使用になるには、外部電源制御の設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

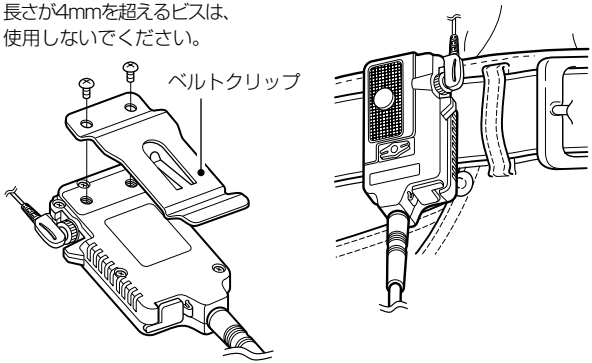
使いかたは、HM-147に付属の取扱説明書をご覧ください。



[ボイスデューサー　イヤーマイクレシーバー]

〈ベルトクリップの取り付け〉

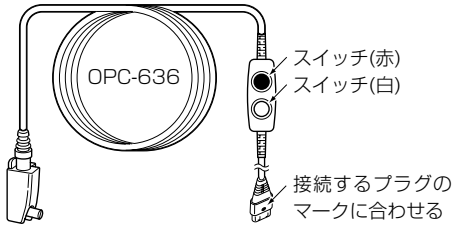
長さが4mmを超えるビスは、
使用しないでください。



[ボイスデューサー　インターフェイス]

7 別売品について

■OPC-636/OPC-637(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)
別売品のHS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。



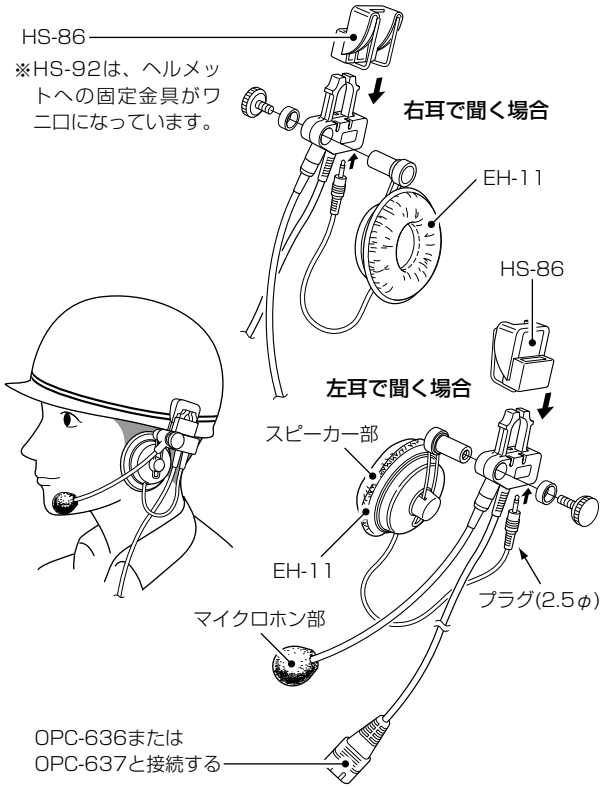
〈OPC-636の場合〉
赤色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。
※白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。
- ：押しているあいだだけ送話する
- ：はなすと送話を中断する

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。
※赤色のスイッチは、白色のスイッチが押し込まれているときは使用できません。
- ：押し込む(入)と送話する
- ：出ている(出)と送話を一時中断する

〈OPC-637の場合〉
黒色のスイッチは、アンロック(未固定)式です。
- ：押しているあいだだけ送話する
- ：はなすと送話を中断する

■HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)と
EH-11(イヤーパット型スピーカー)の組み立て

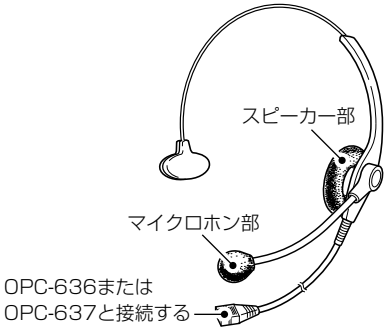
別売品のOPC-636、OPC-637および、EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15と組み合わせてご使用になれます。



7 別売品について

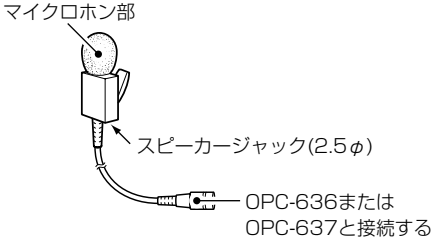
■HS-88(ヘッドセット)

別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。



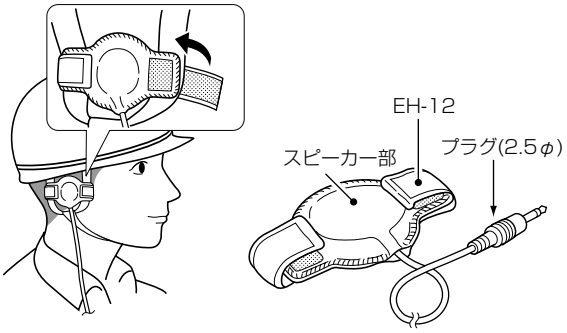
■HM-104/HM-104A(単一指向性/無指向性タイピン型マイクロホン)

別売品のOPC-636、OPC-637に接続してご使用になれます。
スピーカージャックには、別売品のEH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。



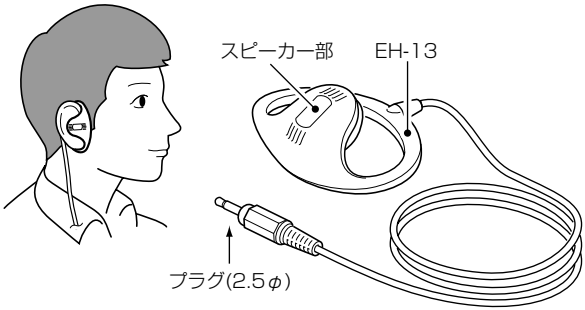
■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109と組み合わせてご使用になれます。



■ EH-13(耳掛け型イヤホン)

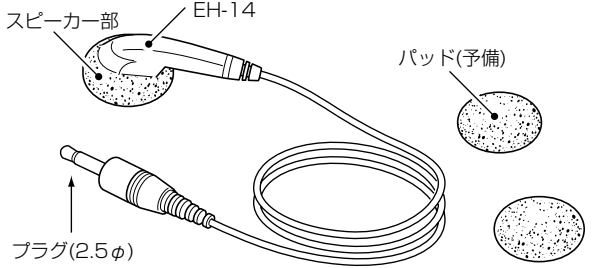
別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109と組み合わせてご使用になれます。(どちらの耳でもご使用可能)



7 別売品について

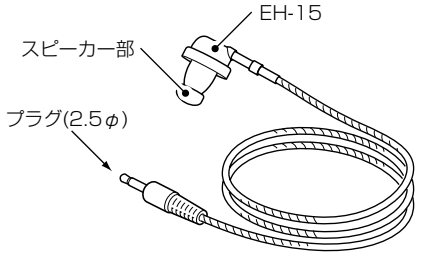
■EH-14(オープンエアー型イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109と組み合わせてご使用になれます。



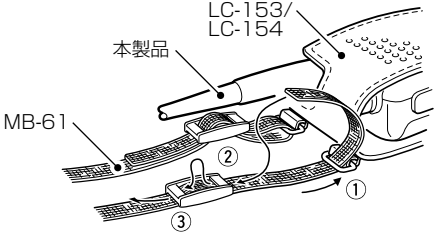
■EH-15(イヤホン)

別売品のHS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109と組み合わせてご使用になれます。



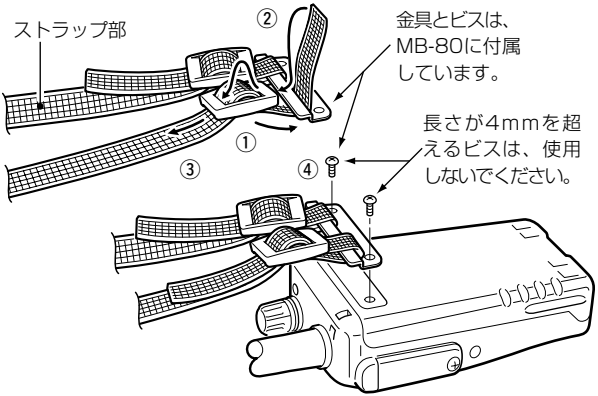
■MB-61(ショルダーストラップ)の取り付け

別売品のLC-153、LC-154と組み合わせてご使用になれます。
図(①～③)の順に取り付けます。
※MB-80のストラップ部としてもご使用になれます。



■MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①～④)の順に取り付けます。なお、ストラップ部(MB-61)は、別売品のLC-153、LC-154と組み合わせてもご使用になれます。



8 保守について

Ⓐ 日常の保守と点検について

- 無線機本体の電池端子、バッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、電源が入らないことや正常に充電できないことがあるので、定期的にお手入れしてください。
- ふだんのお手入れは、やわらかい布で行ってください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
  シンナーやベンジンなどは、絶対に使用しないでください。
- 使用される前(業務の開始前)に、バッテリーパックの残容量が十分あるか、ディスプレイ部の残量表示を確認してください。
  また、バッテリーパック、アンテナ等がしっかりと接続されているか、またゆるみがないか点検してください。
- 定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- 音量が最小にセットされていないか、ディスプレイ部の音量レベル表示を確認してください。

Ⓑ 故障かな？と思ったら

下記のような症状は、故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

〈症状〉[電源]スイッチを押しても電源が入らない

〈確認〉バッテリーパックの容量や、バッテリーパックと無線機本体との接触状態を確認してください。
接触不良のときは、電源装着部を清掃してください。

〈確認〉バッテリーパックの過放電保護回路が動作している可能性があります。
無線機からバッテリーパックを取り外し、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着して電源を確認してください。

〈症状〉充電中に充電器のランプが赤色点滅になる

〈確認〉無線機の電源を入れた状態で充電していないことを確認してください。
無線機の電源を切っても赤色点滅になる場合は、バッテリーパックの故障または寿命です。
お買い上げの販売店または弊社営業所サービス係にお問い合わせください。

〈症状〉ディスプレイ部の表示が変化しない

〈確認〉ロック機能が設定されていないかを確認してください。

〈症状〉スピーカーやイヤホンから音が聞こえない

〈確認〉ディスプレイ部の音量レベル表示で、音量が最小にセットされていないかを確認してください。
それでも音が聞こえないときは、なるべく音量レベルを低くしてから[MONI]スイッチを押したあと、[ツマミ]を回しながら音量を確認してください。

8 保守について

Ⓒ アフターサービスについて

本製品は、すべて厳重な品質管理と厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係まで、故障状況をできるだけ具体的に連絡してください。

保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

修理を依頼されるとき

「Ⓑ 故障かな？と思ったら」(前ページ)にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

●保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

●保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本　　社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-6325H-1J
Printed in Japan

© 2003 Icom Inc.